

月刊きょうと教育通信

vol. 17 平成16年4月号 発行：京都市教育委員会企画課（222-3768）

京都市教育委員会のHPは<http://www.edu.city.kyoto.jp/>でご覧いただけます。広報資料は毎日更新しています。

環境・機能性・快適性・変化への対応に配慮 京都御池中・複合施設的最優秀提案選定 PFI手法により、コストを27億円・30%縮減

このたび、平成18年4月に移転、開設する京都御池中学校・複合施設的最優秀提案を選定しました。

施設の設計、建設と15年間の維持管理等を実施する事業者・事業案は、昨年11月に公募。学識経験者や地域代表等で構成される審査委員会による審査の結果、選定したものです。

選定した施設は、中学校校舎を核として、乳幼児保育所、老人デイサービスセンター、在宅介護支援センター、オフィススペース、賑わい施設を併設し、地下1階地上7階（一部6階）、延床面積は約20,000㎡。

中学校は、市内最大規模の面積（約11,300㎡）を確保し、「多世代の交流、次代に適応し、環境を考える」を方針としています。

この施設整備に当たって、PFI手法を導入するこ



京都御池中学校・複合施設の完成予想図

とにより、優れた設計・機能など、民間アイデアの活用と従来手法とを比較して、27億円・30%の経費節減が実現します。PFI手法の導入は、京都府内の自治体で、また政令指定都市の教育施設への導入では、初めてです。

今後、5月市会で議決の後、平成18年2月の竣工を予定しています。

ご意見・お問合せ＝京都御池中学校・複合施設建設室（TEL 213-1010）

「これからの教育を語る懇談会」 委員に柘本頼兼市長が就任

4月16日、大所高所から信頼される学校づくりについて議論するため、文部科学大臣の私的諮問会議として設置された「これからの教育を語る懇談会」



の初会合が、東京都で開催されました。

懇談会には、全国の市長を代表して柘本頼兼市長が委員に就任。市長は、高度成熟社会における子どもたちを取り巻く大人社会の変革の必要を提言しました。

委員は鳥居泰彦（中教審会長）、奥田碩（日経連会長）、黒川清（日本学術会議会長）をはじめ10名。

今後、この会議を通じて、教育の先進都市・京都の取組と提案が全国に発信されることとなります。

ご意見・お問合せ＝企画課（222 3768）

< 4月の主なできごと >

- 2日 西京高附属中学校開校式
- 5日 「名画で観る日本の四季～京都市立学校所蔵の名品から～」(～7/13, 学校歴史博物館)
- 6日 白川小学校開校式
- 7日 北総合養護学校開校式
陵ヶ岡・室町スポーツ少年団(バレーボール)が市長に優勝報告(第1回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会で優勝)
- 20日 伏見工ラグビー部・ボート部体育表彰(全国高等学校選抜大会で入賞)
- 21日 第1回京都市子ども安全会議
経済5団体へ高校生求人拡大要請(23日)
- 23日 子ども読書の日
- 24日 地下鉄子ども文庫(～25日)
- 29日 京都市中学校春季総合体育大会開会式

道徳教育振興市民会議が中間報告 「しなやかな道徳教育」の推進を提案

このたび、京都市道徳教育振興市民会議（座長：小寺正一京都教育大学副学長）は、「共に生きるための知恵を寄せ合い～しなやかな道徳教育を！」（中間報告）を提言されました。

市民会議は、市民ぐるみで道徳教育のあり方を考えるため、平成13年8月に発足。以来、14回もの会議を開催し、論議を積み重ねるとともに、22,327人の方々から回答をいただいたアンケート調査の実施や河合隼雄名誉座長の基調講演をはじめとする「京都市道徳教育フォーラム」の開催など、みんなが道徳についてともに考える契機となる多彩な取組を展開してこられました。

今回の中間報告は、これらの取組を踏まえて作成したものです。基本的な考え方として、目指すべき道徳教育を、「お互いの生き方や価値観の違いを認め合い、そのよさを伸ばしつつ、共通して守るべきものはしっかりと



身に付けていく教育」ととらえ、「しなやかな道徳教育」として、家庭・地域・学校で、その推進を提案されています。

市民会議では、今後、中間報告に対する市民の皆さんの意見を踏まえ、最終報告を今年6月にまとめられる予定です。

ご意見・お問合せ＝学校指導課（222-3808）

新たな教育を切り拓く学校が誕生

北総合養護学校・西京高附属中・白川小

今年4月、北総合養護学校・西京高等学校附属中学校・白川小学校の3つの学校が開校しました。

- ・北総合養護学校は呉竹、東、西の各養護学校と共に、全国初の地域制・総合制養護学校として元成逸小学校跡地に開校。障害の種別を越えて子どもたちが共に学ぶとともに、養護育成教育相談センターを全校に配置し、教育相談や支援を行います。
- ・西京高校附属中学校は、全国初の大都市での公立中高一貫教育校。第1期生の120人が入学しました。西京高校のエンタープライジング科と接続し、科学者スピリット・起業家スピリットに富んだ人材育成を目指します。
- ・白川小学校は、135年の歴史を有する粟田小学校と有済小学校が統合して開校したもので、両校の輝かしい歴史と教育実践を礎とし、新たな教育が始まります。

それぞれの開校式には榊本頼兼市長、田中セツ子市会議長をはじめ保護者や地域の方など、多数の参加がありました。

さらに、10月には不登校の生徒が学ぶ「特区中学校」が開校予定で、今年は京都市の新たな教育を切り拓く学校が数多く誕生します。

なんば一わん

小・中学校の全普通教室を冷房化 （政令市初）

今年度から、小・中学校の普通教室のうち、冷房化されていない約2,900室の冷房化を5年計画で推進していきます。

近年、小・中学校では、夏休みにおける補充・発展的学習や特色ある学校づくりのための2期制の導入、夏休みの弾力化などにより、子どもたちが暑い時期に活動する時間が増えてきています。このため、子どもたちが夏場でもしっかりと学習できる教育環境づくりを進めるものです。

これまでも京都市では、平成14年度に全校の図書館、保健室、職員室の特別教室等の冷房化が完了しており、15度には、高校と養護学校の普通教室も全て冷房化したところでは、

この他、今年度から順次、全学校に校内LANを整備し、全ての普通教室・特別教室からインターネットに接続できるようにすることにより、わかる授業・楽しい授業を実現するなど、学習環境の向上に向けて取り組んでいきます。

ご意見・お問合せ＝教育環境整備室（222-3791）